

## No.2378

### マイナーな山に黄葉を求めて 金波美峠～阿夫利山

実施日 2008年11月15日(土)

天候 曇り時々晴れ

リーダー 馬場 清土

参加者 上野キヨ、若村貴世子、斎恵美子、友近洋子、若村勝昭、佐藤金治、一柳昭、山口駿三、岩井康子、馬場清土、福島正幸、涌井良明、島本陳重、山崎富美恵、鈴木恵美子、小村井好枝 計 16 名

費用 2,000 円

タイム 上野原駅(8:28 バス) 神野(9:00 ~ 9:10) 金波トンネル(10:07 ~ 10:15) 金波峠(10:25) P718(11:00) 阿夫利山(11:30 ~ 12:10 昼食) 分岐(12:20) 祠(13:25) 林道登山口(13:32 ~ 13:40) 富岡集落(14:00) 秋山温泉(14:15 ~ 16:30 送迎バス) 上野原駅(16:50)

週末の土曜日、上野原駅は黄葉を求めてかなりのハイカーがバスを待っている。午前中に一本しか無い無生野行きのバスに乗り 30 分程揺られて神野で降りた。

ガイドブックにも紹介されていることが少ないので、ほかに誰も降りない。秋山カントリーの脇から、舗装された道を登り始める。徐々に高度を上げていき、振り返ると高柄山、矢平山あたりの山が黄色と緑に染まっている。1 時間位歩いて金波美トンネルに着いた。1998 年に出来たと記されている立派なトンネルだ。ここが登山口、車の往来が無いので休憩には丁度いい。調整休みを取り登山道に入り、ジグザグの急登を一気に金波美峠まで登る。阿夫利山までクヌギ、ナラ、



ソロ等の黄色に染まった雑木の尾根筋をのんびり行く。

尾根を挟んで右に青根の集落、左に富岡の集落が眼下に見える。時間的にそろ



そろ阿夫利山に近いが、道標がないので登山口が解らない。以前来た時に付けて置いた赤テープが無いので、見当を付けて高みに登ってみるが違う、三度目で目指す阿夫利山に出た。立ち木



に「阿夫利山 729m」と書いてある小さな木片が打ち付けてあった。狭い山

頂をこぶし会貸切で、黄葉の下で昼食を摂った。葉の落ちた雑木越しに、道志の加入道山、大室山が見え、その奥に遠く丹沢の山々が霞んでいる。

井戸沢の頭を過ぎ下りに掛かるが、尾根が広がりルートが分かりづらい所があるので、青テープ、赤テープを確認しながら行く。急降下の杉の植林帯は、道が荒れていて緊張する。深閑とする杉木立の中に祠



を見つけて、富岡集落に近いことを確認しひと安心した。林道登山口で休憩し、富岡集落を過ぎ、秋山温泉でゆっくりし、シャトルバスで上野原駅に出た。登山口から下山口まで、山と黄葉をこぶし会で貸し切った一日でした。

参加された皆さんお疲れさまでした。

(記・馬場 清土)

(写真提供・涌井 良明)